



平成27年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月14日

上場会社名 株式会社鉄人化計画 上場取引所 東  
 コード番号 2404 URL <http://www.tetsujin.ne.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀 健一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 国本 亮一 (TEL) 03-5726-8440  
 四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年8月期第1四半期の連結業績 (平成26年9月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第1四半期	2,278	△0.6	△101	—	△80	—	△71	—
26年8月期第1四半期	2,292	3.5	△212	—	△234	—	△179	—

(注) 包括利益 27年8月期第1四半期 △60百万円(—%) 26年8月期第1四半期 △167百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第1四半期	△11.51	—
26年8月期第1四半期	△28.96	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第1四半期	10,005	1,688	16.9
26年8月期	10,083	1,777	17.6

(参考) 自己資本 27年8月期第1四半期 1,688百万円 26年8月期 1,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	—	—	4.50	4.50
27年8月期	—	—	—	—	—
27年8月期(予想)	—	5.50	—	5.50	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想 (平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,014	△1.4	191	155.6	209	274.0	110	—	17.79
通期	9,980	△1.7	552	80.9	593	104.3	335	151.6	53.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年8月期1Q	6,687,200株	26年8月期	6,687,200株
② 期末自己株式数	27年8月期1Q	476,600株	26年8月期	476,600株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年8月期1Q	6,210,600株	26年8月期1Q	6,210,600株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 経営成績に関する説明 .....	P. 2
(2) 財政状態に関する説明 .....	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	P. 3
2. 四半期連結財務諸表 .....	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	P. 9
(継続企業の前提に関する注記) .....	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	P. 9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府における各種経済政策の効果や円安基調・株価の上昇を背景に、企業収益や製造業の設備投資において回復傾向が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で米国の金融政策正常化に向けた動きの影響や欧州、中国やその他新興国の先行きの不透明さに加え、国内では将来における消費税率の更なる引上げの検討等の懸念材料があり、引続き我が国の景気を下押しするリスクを抱えております。

当社が主力事業を展開するカラオケルーム運営事業におきましては、人口減少の影響も受けカラオケ参加人口は微減傾向にあると考えられ、競争環境は厳しさを増していることから、単に売上規模の拡大だけを追うのではなく、競合他社と差別化された特色あるサービスの提供や、それぞれの店舗環境に応じた販売促進活動の推進等が求められる状況になっております。

このような経済環境の下、当社グループの主力事業であるカラオケルーム運営事業におきましては、新規出店による収入増加に依存するのではなく、既存店舗のオペレーションを徹底して見直すことによる売上・利益の維持・拡大を追求し、提供メニューの整理見直しや効率的な販売促進活動等を進めた他、店舗スタッフへの接客教育に注力しサービスレベル向上に取り組んでまいりました。その結果、総店舗数は国内外ともに減少したことにより、売上高は前年同四半期に対して減収となりましたが、営業損失は前年同四半期に対して縮小いたしました。また、財務面では競争激化の続くカラオケルーム業界で生残りを図るために、引続き財務基盤の強化に注力してまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,278百万円（前年同四半期比0.6%減）、経常損失80百万円（前年同四半期経常損失234百万円）、四半期純損失71百万円（前年同四半期四半期純損失179百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

## (カラオケルーム運営事業)

当事業におきましては、店舗原価改善や接客サービスの向上に取り組んでまいりました他、顧客ニーズを掘下げたオリジナル楽曲の配信とこれらに関連するアーティストやキャラクターとのコラボレーション企画等のイベントを積極的に推進し、ファン層の取込みに努めました。

業績面におきましては、比較可能な既存店<sup>\*2</sup>の売上高が前年同四半期比99.5%となりました。

これは主に、出店地域の競争激化による来店客数の減少によるものと判断しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は1,829百万円（前年同四半期比1.4%減）、セグメント損失（営業損失）は12百万円（前年同四半期セグメント損失（営業損失）91百万円）となりました。

※1 ボーカロイドはヤマハ株式会社の登録商標です。

※2 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

以下、同様であります。

## (フルサービス型珈琲ショップ運営事業)

京都を中心にからふね屋珈琲の屋号でフルサービス型珈琲ショップ運営を行っております。近年のカフェブームを背景に京都河原町三条・本店の近隣では競合店の出店ラッシュとなっておりますが、徹底した接客サービスの向上に注力いたしました結果、比較可能な既存店の売上高が前年同四半期比109.1%となり、業績は好調に推移いたしました。

なお、台湾における100%子会社（鐵人化計畫(股)有限公司）が台湾・台中市において「咖蘭芙妮屋咖啡店（からふね屋珈琲店）」の店名でフルサービス型珈琲ショップ1店舗を運営しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるフルサービス型珈琲ショップ運営事業の売上高は204百万円（前年同四半期比5.9%増）、セグメント利益（営業利益）は12百万円（前年同四半期セグメント損失（営業損失）2百万円）となりました。

## (C P事業)

当事業におきましては、「カラオケの鉄人モバイル」(以下、「カラ鉄モバイル」という。)サイトを中心に運営を行っております。前期に引続き会員獲得方法の見直しを進めるのと同時に会員メリットの拡充などの効率的なサイト運営を図った結果、利益は大幅に向上しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるC P事業の売上高は89百万円(前年同四半期比23.4%減)、セグメント利益(営業利益)は56百万円(前年同四半期比40.7%増)となりました。

## (その他)

その他の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、一時のダーツブームから需要は減少傾向にあり、価格競争も激しくなっていることから、依然厳しい経営環境が続いております。

まんが喫茶(複合カフェ)運営事業におきましては、近年大型のアミューズメント設備(ビリヤード・ダーツ、カラオケルームなど)を併設する店舗が増加傾向にある中、当社グループは従来型のコミックとインターネット、オンラインゲーム等の個人向けコンテンツを中心としたサービスを提供しております。同事業に関わる種々法規制は年々厳しくなっておりますが、効率的な運営に注力した結果、利益面で業績は改善いたしました。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行ないました。

また、アメリカ合衆国の準州であるグアムに本店を置く、TETSUJIN USA Inc.はグアム・タモン地区「GUAM REEF HOTEL」内でエンターテインメントレストラン1店舗を運営しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他の売上高は203百万円(前年同四半期比25.2%減)、セグメント利益(営業利益)は24百万円(前年同四半期比537.6%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における、資産の合計は、10,005百万円となり、前連結会計年度末に比較して78百万円減少いたしました。

流動資産は、2,781百万円となり、274百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が369百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は、7,223百万円となり、196百万円増加いたしました。主な要因は、長期未収入金が増加したことなどによるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における、負債の合計は、8,316百万円となり、前連結会計年度末に比較して10百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金が225百万円減少、未払法人税等が69百万円減少及び社債が50百万円減少した一方で、長期前受収益が345百万円増加したことなどによるものであります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,688百万円となり、前連結会計年度末に比較して88百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金が99百万円減少した一方で、為替換算調整勘定が8百万円増加したことなどによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当事業は、忘年会等が行われる時期を含む第2四半期と歓送迎会等が行われる時期を含む第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、景況感の復調による消費者の安近短レジャー離れや消費税増税に伴う消費者マインドの低下などの懸念も存在する中で、当社グループと同業の競合店だけではなく娯楽・サービスを営む他業種との間においても顧客獲得競争の激化が予想されるなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

カラオケルーム運営事業におきましては、店舗商圏・環境を意識したセグメンテーション別管理の徹底を図ることにより、売上及び利益率の向上に取り組んでまいります。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、引続き、京都河原町三条・本店におけるブランドイメージの構築に注力するとともに、からふね屋オリジナルスイーツの販売、更なる新メニューの開発などを進めてまいります。

CP事業におきましては、会員獲得コストの効率的な運用と効果的な負担による収益稼得を進めてまいります。

その他「まんが喫茶（複合カフェ）運営事業」におきましては、今後も店舗運営コストの生産性向上と市場動向を注視しながら、業績回復に向けた施策を検討してまいります。

以上を継続推進していくために、並行して財務基盤の強化にも注力してまいります。その一環として、長期的な不採算店舗又は事業収益稼得上障害となる店舗については、営業フロアの縮小や店舗業態の変更、スクラップを進めていくほか、有利子負債についても営業キャッシュの利用により引続き削減してまいります。

また、海外事業においても、将来の収益性を検証し、今後の展開を検討してまいります。

以上の状況により、現時点における当期の業績見通しは、平成26年10月15日に公表いたしました「平成26年8月期 決算短信」の平成27年8月期の通期の連結業績予想に変更はありません。

※当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基き当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,218,955	1,849,383
受取手形及び売掛金	147,953	151,226
商品及び製品	29,379	29,886
仕掛品	3,553	3,847
原材料及び貯蔵品	117,266	114,229
その他	539,829	634,390
貸倒引当金	△891	△997
流動資産合計	3,056,047	2,781,965
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,028,072	2,989,616
工具、器具及び備品(純額)	190,544	194,151
その他(純額)	1,056,248	1,011,088
有形固定資産合計	4,274,864	4,194,855
無形固定資産		
のれん	96,482	78,431
借地権	133,892	133,892
その他	395,391	433,843
無形固定資産合計	625,766	646,167
投資その他の資産		
差入保証金	1,845,720	1,846,672
その他	304,926	559,286
貸倒引当金	△23,882	△23,512
投資その他の資産合計	2,126,764	2,382,445
固定資産合計	7,027,395	7,223,468
資産合計	10,083,442	10,005,434

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	203,131	187,462
短期借入金	18,260	—
1年内返済予定の長期借入金	2,384,641	2,402,737
1年内償還予定の社債	90,000	50,000
未払費用	527,273	582,367
未払法人税等	93,412	23,865
賞与引当金	7,248	8,316
ポイント引当金	16,694	16,773
その他	303,629	294,500
流動負債合計	3,644,290	3,566,023
固定負債		
社債	230,000	220,000
長期借入金	4,182,664	3,956,852
資産除去債務	26,259	30,860
その他	222,775	542,756
固定負債合計	4,661,699	4,750,469
負債合計	8,305,989	8,316,493
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,509	743,509
資本剰余金	736,667	736,667
利益剰余金	472,855	373,414
自己株式	△176,550	△176,550
株主資本合計	1,776,482	1,677,040
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,592	4,385
為替換算調整勘定	△821	7,315
その他の包括利益累計額合計	771	11,700
新株予約権	200	200
純資産合計	1,777,453	1,688,941
負債純資産合計	10,083,442	10,005,434



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成26年11月30日)
売上高	2,292,226	2,278,812
売上原価	2,151,024	2,012,233
売上総利益	141,202	266,579
販売費及び一般管理費	353,433	367,986
営業損失(△)	△212,230	△101,406
営業外収益		
受取利息	92	124
受取配当金	156	156
協賛金収入	10,359	31,499
設備賃貸料	1,015	1,015
為替差益	1,148	8,897
有価証券売却益	1,402	—
その他	6,241	5,185
営業外収益合計	20,414	46,879
営業外費用		
支払利息	28,791	22,943
社債発行費	1,909	—
支払手数料	9,249	1,000
その他	3,042	2,386
営業外費用合計	42,993	26,330
経常損失(△)	△234,809	△80,857
特別利益		
固定資産売却益	1,102	—
特別利益合計	1,102	—
特別損失		
固定資産売却損	18	—
固定資産除却損	454	—
特別損失合計	473	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△234,180	△80,857
法人税、住民税及び事業税	12,831	19,558
法人税等調整額	△67,138	△28,922
法人税等合計	△54,306	△9,364
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△179,873	△71,493
少数株主損失(△)	△1	—
四半期純損失(△)	△179,872	△71,493

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△179,873	△71,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,368	2,792
為替換算調整勘定	10,675	8,136
その他の包括利益合計	12,043	10,929
四半期包括利益	△167,829	△60,563
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△167,828	△60,563
少数株主に係る四半期包括利益	△0	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成26年11月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成26年11月30日)

該当事項はありません。